

令和4年度

新型コロナウイルスとの共存時代における公民館等運営実態に  
関する調査研究報告書

令和5年3月

兵庫県公民館連合会

(公財) 兵庫県生きがい創造協会

## 目 次

I	はじめに	1
II	調査方法	2
III	調査内容と結果について	3
IV	考察	15
V	おわりに	19

## I はじめに

兵庫県公民館連合会（以下、兵公連）と公益財団法人兵庫県生きがい創造協会（以下、生きがい創造協会）は、生涯学習の拠点として、県内の生涯学習施設等に対する支援の一つとして、生涯学習の方向性やカリキュラムのあり方、現状における成果と課題などを検証する調査研究を行ってきた。平成 26・27 年度の「公民館における現状と今後のあり方に関する調査」で、従来から課題とされてきた「利用者の高齢者への偏り」がより明確になったことから、令和元年度には若年者層の公民館利用の調査として、公民館（社会教育・生涯学習施設）と学校組織等の連携等について調査を行った。

一方、令和 2 年から始まった新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、経済活動をはじめ社会全体の動きが止まるなど、社会に大きな爪痕を残し現在もその影響が少なからず続いている。公民館等の社会教育施設・生涯学習施設（以下、公民館等）も例外ではなく、一時休館を余儀なくされたり、事業の継続が困難になるなどその影響は非常に大きかった。アンケート調査時期（令和 4 年 7 月）には、新型コロナウイルス感染拡大は第 7 波に突入しようとし、収束の見込みは不透明な状況であった。社会全体として新型コロナウイルス感染症との共存時代を如何に乗り越えていくかが大きな課題となっていた。このような状況の中、公民館等の実態を調査し、今後の公民館の運営や事業展開に向けて、参考となる基礎資料を作成するためにアンケート調査を実施することとした。

このアンケート調査は、新型コロナウイルス感染症の影響が完全に収束することが不透明な中、新型コロナウイルス感染症との共存時代の公民館等の模索の実態を調査することを目的とし、公民館と学校組織等の連携等、令和元年度調査と同じ項目を加えて調査を実施し、コロナ禍の前後における公民館等の実態を探ったものである。

調査項目は、「Ⅰ 貴施設の基本情報」、「Ⅱ 新型コロナウイルスとの共存時代における公民館活動等の実態調査（6 問）」に加え、従来から、公民館運営の大きな課題の一つとされている「Ⅲ 公民館等（社会教育・生涯学習施設）と学校組織等の連携等（10 問）」について調査を実施した。

現在、新型コロナウイルスへの社会全体の対応は、令和 5 年 3 月 13 日からマスク着用が個人の判断に委ねられ、さらには、同年 5 月 8 日から感染症法上の措置が季節性インフルエンザと同じ「5 類」に移行するなど、大きく動き出そうとしている。この様な時だからこそ、新型コロナウイルス感染症との共存を模索する中で得られた成果や課題などを踏まえた事業展開が必要なところ、本研究報告書が多くのご関係者と情報共有を行えたら幸いである。

## Ⅱ 調査方法

### 1 調査目的

社会全体として新型コロナウイルス感染症との共存時代を如何に乗り越えていくかが大きな課題となっている。このような状況の中、公民館等の実態を調査し、今後の公民館等の運営や事業展開に向けて、参考となる基礎資料を作成する。

### 2 調査設計

#### (1) 調査対象 (298 施設等)

- ① 兵庫県内の公民館
- ② 兵庫県内の公民館類似施設
- ③ 兵庫県内の公民館を設置しない市町の社会教育・生涯学習担当課
- ④ 回答数 (率) **171 施設等 (57.4%)**

#### (2) 調査時期

- ① 調査対象の活動時期  
令和2年以降、回答日に至るまでの期間
- ② 調査・回答期間  
令和4年7月20日 ～ 令和4年8月31日

#### (3) 調査方法

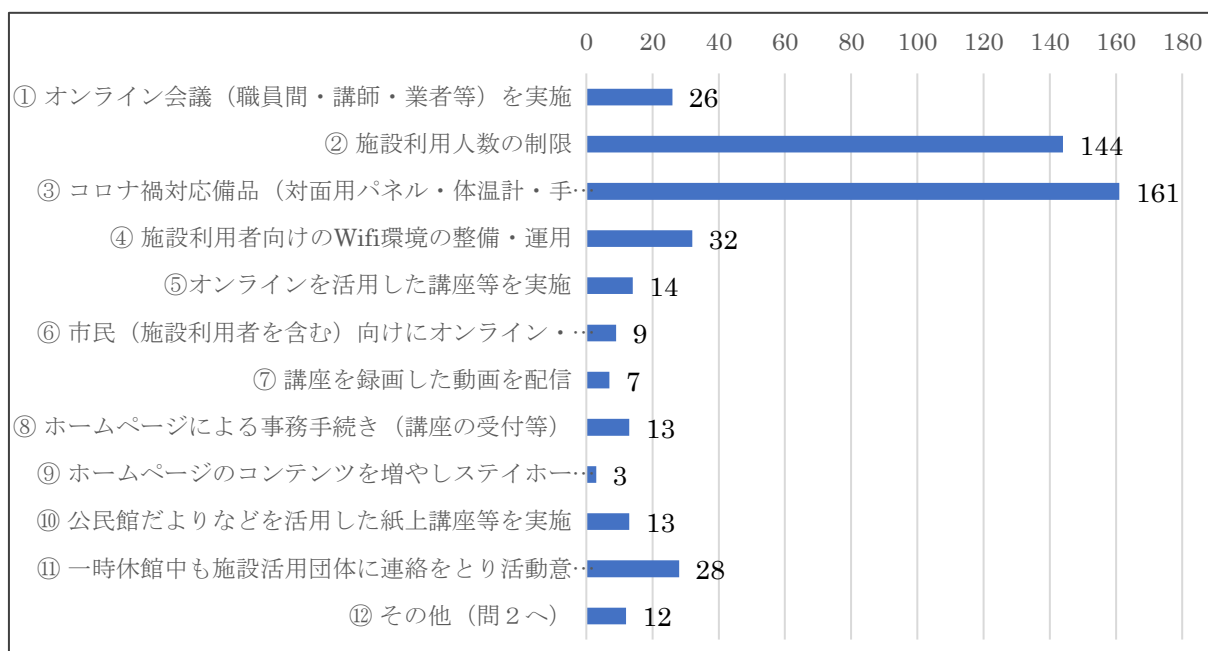
- ① 回答の方法
  - ・ 公民館活動の実態調査－複数回答による選択肢と自由記述
  - ・ 公民館と学校組織との連携等の実態調査－単一回答による選択式と自由記述
- ② 調査方法
  - ・ グーグルフォームによるWEB上での回答 — **70件 (40.9%)**
  - ・ Excel ファイル (送付) による回答 — **101件 (59.1%)**

### Ⅲ 調査内容と結果について

#### 1 新型コロナウイルスとの共存時代における公民館活動の実態調査

問1 令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症との共存時代、公民館等の運営上、学級・講座や施設管理上で工夫して実施されたことをご記入ください(複数回答可)。

- ① オンライン会議（職員間・講師・業者等）を実施
- ② 施設利用人数の制限
- ③ コロナ禍対応備品（対面用パネル・体温計・手指消毒等）を整備・運用
- ④ 施設利用者向けのWifi環境の整備・運用
- ⑤ オンラインを活用した講座等を実施
- ⑥ 市民（施設利用者を含む）向けにオンライン・デジタル研修を実施
- ⑦ 講座を録画した動画を配信
- ⑧ ホームページによる事務手続き（講座の受付等）
- ⑨ ホームページのコンテンツを増やしステイホーム中の学びを促進
- ⑩ 公民館だよりなどを活用した紙上講座等を実施
- ⑪ 一時閉館中も施設活用団体に連絡をとり活動意欲維持を促進
- ⑫ その他（問2へ 回答用紙（記述））



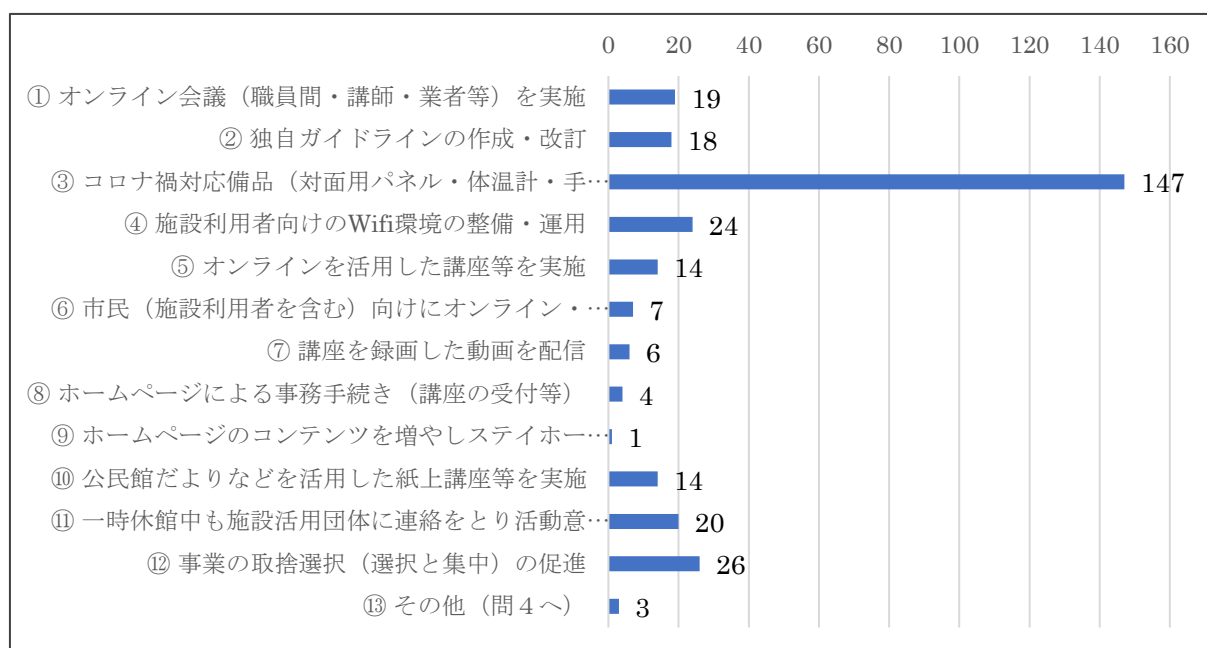
問2 上記の問1で「⑫ その他」を選ばれた方は、具体的にご記入ください。

感染防止対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座開始、終了時の消毒（机、椅子、スリッパ、ドアなど、利用者が触れる物品等）。</li> <li>(2)</li> <li>・清掃作業を掃除機でなくウェットシートにて床面清掃（机も含む）。</li> <li>・新型コロナに係る掲示物で、注意喚起。</li> <li>・施設利用者、団体からの健康状況の確認書の提出。</li> <li>・公民館利用者連絡票への記入(利用日、名前、連絡先、利用目的、来館前の検体温温等を記入)。</li> </ul>
--------	---

講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座(受講日・時間)の調整を実施。(2)</li> <li>・講座に参加できなかった人には可能な限り資料を後ほど共有した。</li> </ul>
広報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座実施の主な内容を「公民館だより」で広報した。</li> <li>・公民館だよりの全戸配布数の増加。</li> </ul>
ICT 活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部屋の抽選申込及び結果案内をインターネットで実施できるようシステムを改修。</li> <li>・各サークルの発表内容(演技等)を動画にし、特定日に、全ての動画を人数制限をしたうえで、動画発表会を開催。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市のホームページで文化展を実施。</li> <li>・本年度に着任したばかりなので、運営については昨年度を踏襲しながら管理。</li> </ul>

問3 令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症との共存時代、公民館の運営上、コロナ禍だからこそ、促進できたと感じている(考えている)ことをご記入ください(複数回答可)。

- ① オンライン会議（職員間・講師・業者等）の実施
- ② 独自ガイドラインの作成・改訂
- ③ コロナ禍対応備品（対面用パネル・体温計・手指消毒等）の整備・運用
- ④ 施設利用者向けのWifi環境の整備・運用
- ⑤ オンラインを活用した講座等の実施
- ⑥ 市民（施設利用者を含む）向けにオンライン・デジタル研修の実施
- ⑦ 講座を録画した動画の配信
- ⑧ ホームページによる事務手続き（講座の受付等）
- ⑨ ホームページのコンテンツを増やしステイホーム中の学びの促進
- ⑩ 公民館だよりなどを活用した紙上講座等の実施
- ⑪ 一時閉館中も施設活用団体に連絡をとり活動意欲維持の促進
- ⑫ 事業の取捨選択（選択と集中）の促進
- ⑬ その他（問4へ 回答用紙（記述））

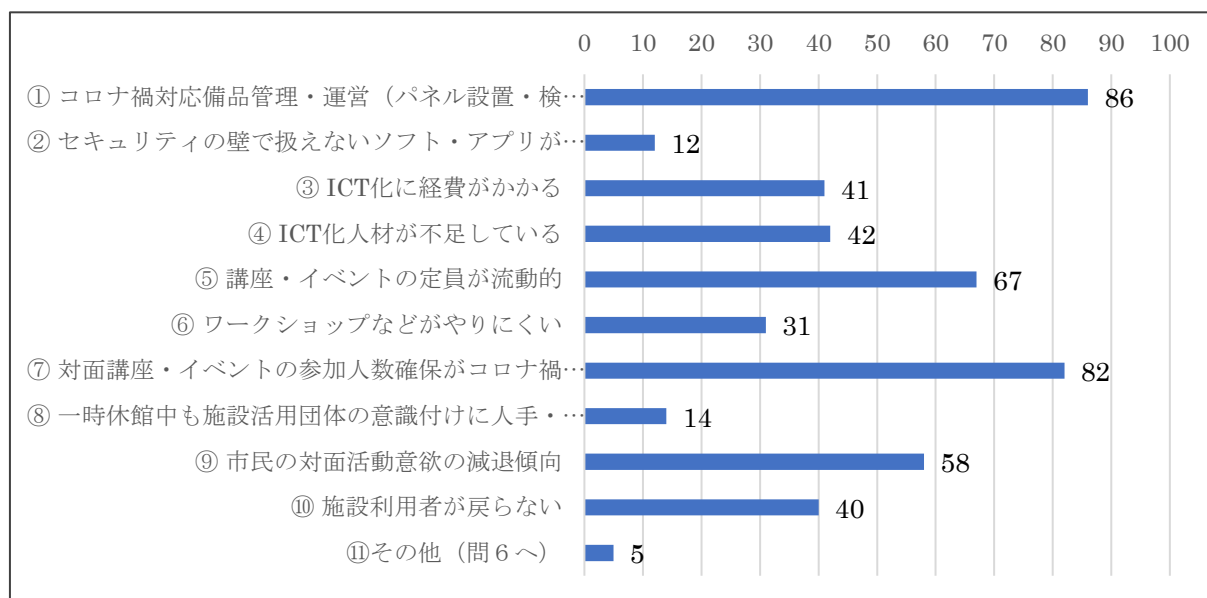


問4 上記の問3で「⑬ その他」を選ばれた方は、具体的にご記入ください。

「コロナ」が話題になることで、地域住民相互の良き関係性が深化。
各部屋の抽選申込及び結果案内をインターネットで実施できるようシステムを改修。
動画作成は、自分たちの活動を見つめ直す機会。

問5 令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症との共存時代、公民館の運営上、課題と感じている(考えている)ことをご記入ください(複数回答可)。

- ① コロナ禍対応備品管理・運営（パネル設置・検温・消毒など）で人手・手間が取られる
- ② セキュリティの壁で扱えないソフト・アプリがある
- ③ ICT化に経費がかかる（環境整備が遅れている）
- ④ ICT化人材が不足している
- ⑤ 講座・イベントの定員が流動的
- ⑥ ワークショップなどがやりにくい
- ⑦ 対面講座・イベントの参加人数確保がコロナ禍以前より難しい
- ⑧ 一時閉館中の意識付けに人手がとられる
- ⑨ 市民の対面活動意欲の減退傾向
- ⑩ 施設利用者が戻らない
- ⑪ その他（問6へ 回答用紙（記述））



問6 上記の問5で「⑪ その他」を選ばれた方は、具体的にご記入ください。

講座の運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者の大半が高齢者で、講座やイベントへの参加を自粛する傾向。</li> <li>・ 調理など作業、実技を伴い、対面、近接が多い講座は開催が困難。</li> <li>・ 文化発表会などたくさん人が集まるイベントの開催は困難。</li> <li>・ 利用者の増加と年齢層のアンバランス。</li> </ul>
-------	--

その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍前のイベントを復活させたいが経験者が少なく、要領等の引継ぎも無く、全てが初期化されていて、一からイベント企画をしていることに加えてのコロナ禍対策。ボランティアの確保も大変。</li> <li>・コロナ感染状況で館の使用制限が発令されてから利用団体に連絡するまでの時間がなく、連絡手段の検討が必要。また、急な利用可能時間の変更などで利用者への迷惑・負担。</li> <li>・高齢者をはじめ地域住民の待ち合わせや打合せの場としての利用が激減。</li> <li>・「このようなアンケートなどの余分な業務に準じた作業が入る」。アンケートを求めるだけでなく、その結果をフィードバックが必要(結果などの報告が無いものも多数)。</li> </ul>
-----	--

## 2 新型コロナウイルスとの共存時代における

### 公民館（社会教育・生涯学習施設）と学校組織等との連携等の実態調査

問1 現在、貴施設の事業に学校組織等との連携はありますか。

- ① ある 80 (48%)      ② ない 80 (48%)      ③わからない 5 (3%)

問2 上記の問1で「①ある」とお答えいただいた方は、差し支えなければその組織名と事業名をご記入ください。

※ 対象となる事業が複数ございましたらできるだけ全てご記入ください。

[回答用紙（記述）]

小・中学生対象の (親子含む) 講座・教室  (44)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町探検事業 ・ふれあい体験教室 ・梨っ子チャレンジ教室 ・夏休み体験教室 ・高雄小学校夏休み子ども教室 ・こども体験学習 ・教養講座(子供お菓子手作り教室) ・小学校ホタルウォーク ・文化講座(絵手紙教室) ・夏季子ども読書感想文教室 ・小学校しめ縄づくり ・ふるさとおもしろ塾(奥佐津小学校、香住小学校、佐津小学校、柴山小学校、射添小学校、小代小学校、長井小学校、兎塚小学校、余部小学校) ・農業体験 ・ライトトラップ赤崎むしむし観察隊 ・子供体験教室 ・公民館主催事業「小学生講座」年間12回(こども絵画教室、こども手芸教室、こども将棋教室等) ・安乎小学校(3年生)工作教室「バランストンボづくり」 ・子ども料理教室(キッズクッキング) ・峰相小学校(2年生)の町探検でピアノ教室、フラダンス教室</li> <li>・子ども教室(茶道、華道、絵画、将棋、囲碁) ・児童用英語(勝原公民館)</li> <li>・宮水ジュニア『まんが』講座 ・夏休みオープン教室(小中学生徒の参加)</li> <li>・安室中学校公民館出前講座で講師派遣(ネットとスマホに潜む危険)</li> <li>・安乎中学校(1年生)出前講座(地域の河川、海岸クリーン活動)、安乎地域の歴史講座(地名の起こり、縄文～現代)</li> <li>・親子ふしぎ体験隊事業</li> </ul>
高校との連携・交流・事業  (5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語あそび(葺合高校) ・吉川町文化祭(吉川高校) ・サタチャレ(香住高校、村岡高校) ・小田南プラザ祭り(尼崎小田高校、尼崎高校)、あまおだ夏祭り、あまおだ減災フェス、ふれあい喫茶(尼崎小田高校) ・社協主催「コミュニティ食堂きらら」(別所高校ボランティア部)</li> </ul>



<p>大学との連携・交流・事業 (7)</p>	<p>・包括連携協定(市と関西大学) ・手話教室(関西福祉大学) ・老人大学事業、セミナー事業(神戸医療未来大学) ・演劇ワークショップ講座(大手前大学建築&amp;芸術学部の学生、准教授) ・心理学部実習(神戸学院大学) ・腕時計作りとフォトフレーム作り、ブラパンとスライム作り、小田南プラザ祭り、あまおだ減災フェス(関西国際大学) ・サマースクール「デイキャンプ」(関西国際大学生が野外活動プログラムを考え、キャンプリーダーを担当する。)</p>
<p>中学校 トライやるウィーク (14)</p>	<p>・善防中学校、加西特別支援学校、市内の中学校のトライやるウィーク ・吉川中学校、姫路市立山陽中学校(トライやるウィークスポーツ交流会) ・大白書中学校</p>
<p>交流事業 (30)</p>	<p>・地域と学校の連携 ・協働体制推進事業 ・小学校ふれあい広場 ・新温泉町青推協共催 ・小学校課外授業の協力 ・妻鹿小学校 ・白鳥小学校PTAドミノ大会 ・英賀保小学校 ・飾磨西中学校 ・地域学習(高田屋嘉兵衛翁顕彰会) ・公民館施設訪問(学校行事の一環) ・学校教育田の設置と稲作づくり事業 ・龍田地区農業体験指導グループ ・安乎小学校(2年生)まち探検学習 ・「町たんけん」公民館ってどんなところ?(高浜小学校2年) ・小学校5、6年の交流(お月見会、天体観測、そうめん流し等) ・敬老会と幼小中園児、児童のアトラクション参加 ・小学生と老人会との交流グラウンドゴルフ大会 ・安乎保育所のクリスマス会にサンタクロースとして全クラス(5クラス)と交流 ・荒川幼稚園の英会話、七夕会とクリスマス会(中止) ・人権作文の朗読、藤原惺窩まつり短歌 ・俳句等の募集(豊地小学校、三木中学校) ・浜坂中学校、浜坂少年少女音楽隊、兵庫県立芸術文化観光専門職大学、高齢者大学宇都野学園 ・高齢者大学、文化の祭典、伝統産業体験交流 ・ふれあい交流会(安乎保育所と独居高齢者等) ・箏曲部、吹奏楽部ミニコンサート(安乎保育所) ・「交通安全教室」「トーンチャイム」「書初め」等(高浜幼稚園) ・地域総合防災訓練への参加(中学生) ・別所中学校クリーンキャンペーンによる地域清掃活動 ・公民館行事運営ボランティア(泉中学校生)</p>
<p>祭り (4)</p>	<p>・山野里小学校ふるさと祭り ・豊地小学校、三木中学校夏まつりの出演、運営 ・小田南プラザ祭り(小田中学校) ・公民館まつりでの吹奏楽部の特別演奏会(加西中学校)</p>
<p>各種作品展 (13)</p>	<p>・ふれあいふるさとまつり作品展 ・山野里小学校美術作品展 ・子ども元氣応援作品展 ・不定期な小学生作品展・高浜保育所「作品展」 ・シークレット花火絵画展(認定こども園、別所小学校、別所中学校) ・ユニット12作品展 ・文化祭における作品展示 ・町民文化祭への作品展示(豊地小学校、三木中学校)</p>
<p>文化祭・体育祭・運動会等 (7)</p>	<p>・体育祭(R2~R4 中止)、球技大会(R2R3 中止)R4実施予定、納涼祭(R2.3 中止)R4 実施 ・文化発表会 ・高田小学校と高田公民館文化祭 ・こども園参加の文化 ・芸能祭(コロナ禍で中止) ・大町小学校オープンスクールと公民館の地区文化祭の開催 ・大町小学校の運動会、地区運動会の実施</p>

<p>委員会 (8)</p>	<p>・公民館運営委員会 ・青少年健全育成委協議会 ・補導委員会 ・三木地区ふれあい交流事業推進委員会(まちづくり) ・運営委員会メンバーに小中学校長が入っている ・三木地区人権同和教育推進協議会(人権啓発) ・口吉川ふれあいまちづくり協議会「スポーツ交流部会」「暮らし生活部会」「防犯防災部会」 ・学校単位の PTA,連合子ども会</p>
<p>その他 (10)</p>	<p>・小学校キャリア教育 ・不登校支援事業サテライト教室 ・中学校生物部(チスジノリ保全活動)に活動資金の補助 ・自由っ子未来塾(夏休み期間中に10日間の学習支援) ・大町小学校のクラブ活動の援助(指導) ・子ども安全 ・安心を守る地域内パトロール活動(各町内会) ・認定こども園(別所地区)家庭教育学級 ・公民館のグラウンドゴルフ大会で小学校グラウンドを使用 ・公民館講座で小学校の体育館利用</p>

問3 令和2～3年度に、貴施設の事業において学校組織等と連携した実績はありますか。

- ① ある 60 (40%)      ② ない 80 (53%)      ③わからない 11 (7%)

問4 上記の問3において「①ある」とお答えいただいた方は、具体的な内容をわかる範囲でご記入ください。

[回答用紙(記述)]

<p>小・中学生対象の (親子含む) 講座・教室 (24)</p>	<p>・梨っ子チャレンジ親子工作教室(地域のこども園児、小学生対象) ・夏休み子ども教室(高雄小学校) ・絵画及び習字教室(公民館の登録グループの講師を招く) ・手しごと教室藍染めTシャツ作り(新温泉町青推協共催) ・人権教育事業ひまわり学習会「渋染一揆について渋染・藍染め体験」(新温泉町中学生) ・昔のあそび伝達 ・環境学習(河口近くの生物、風力による発電、菜の花エコプロジェクト) ・「まんが」「芸術ワークショップ」 ・夏季子ども読書感想文教室・夏休みオープン教室 ・昔あそび体験(1年生) ・子ども料理教室(キッズクッキング) ・小学校しめ縄づくり ・手作り絵本教室 ・夏休み工作教室(児童センター・関西電力) ・子供の茶道体験会 ・農業体験(龍田地区農業体験指導グループ) ・鉄道旅行講座 ・農業体験 ・「防災教育」「地元の偉人講座」「楽しい英語教室」「動く玩具づくり」 ・安乎中学校(1年生)出前講座でふるさと学習(町内の清掃活動の中間で、町内の海岸や河川、山、神社や祭礼等について現地で説明をする) ・安乎中学校(1年生)出前講座でふるさと学習(難読地名「あいが」の起こり、縄文、弥生遺跡、土器、大和朝廷とのつながり、「安乎の怪」江戸中期と現代で人口がほぼ同じなど、地域の歴史を知り、郷土への興味、関心と愛する心を育てる) ・各講座に参加者及び公民館周辺の散策</p>
<p>高校との連携・交流・事業 (4)</p>	<p>・夏休み英語あそび(高校生と) ・吉川町文化祭(吉川高校) ・主催事業で高校の科学部、茶道部に講師を依頼 ・社協主催「コミュニティ食堂きらら」12月のクリスマス会で別所高校ボランティア部が応援</p>

<p>大学との連携・交流・事業 (4)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮水ジュニア食育、調理講座(武庫川女子大学国際健康開発研究所)</li> <li>・公民館講座(子ども手話教室)の講師依頼(関西福祉大学の手話サークル)</li> <li>・夏休み高校生ボランティアを学童保育所へ派遣</li> <li>・兵庫県立芸術文化観光専門職大学と高齢者大学宇都野学園</li> </ul>
<p>中学校 トライやるウィーク (8)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トライやるウィーク(就業体験)受け入れ (吉川中学校、大白書中学校等)</li> </ul>
<p>交流事業 (23)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育田の設置と稲作づくり ・イベントやワークショップ ・公民館を訪問(小学生の社会科見学) ・公民館の講座を見学(2年生授業) ・自転車講習会 ・防災訓練 ・「町たんけん」公民館ってどんなところ?(高浜小学校2年) ・安乎小学校(2年生)まち探検学習(公民館の見学と概要説明、まち探検に同行して、町内の施設や建物等のを3か所ほど説明する) ・クリスマスコンサート(中学校吹奏楽部) ・高齢者大学生と小学生の交流</li> <li>・スポーツ交流(小学4年生) ・ドミノ大会(白鳥小学校PTA) ・クリスマス会(隣接する保育所にサンタクロースとして全クラス(5クラス)の園児にプレゼント渡しと記念写真、歌やダンスの交流(安乎保育所) ・あまおだ夏祭り(スーパーボールすくいやもぐらたたき等の遊びブース、車椅子競争や葉脈標本づくり等の学びに繋がるブース、吹奏楽部やバントワリング部の舞台公演など) ・高齢者大学、文化の祭典 ・浜坂中学校と浜坂少年少女音楽隊 ・老人会との交流グラウンドゴルフ大会 ・人権研究大会での作文朗読(別所小学校、別所中学校) ・藤原惺窩まつり短歌、俳句等の募集 ・高浜幼稚園「交通安全教室」「トーンチャイム」「書初め」「人形劇」「ゆめランド」(紙芝居、紙工作、てあそびうた)等 ・公民館の施設見学を実施(町探検事業の一環) ・公民館行事運営ボランティア(泉中学校生) ・クリーンキャンペーンによる地域清掃活動(別所中学校)</li> </ul>
<p>各種作品展 (9)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあいふるさとまつりの作品展(R2年は中止) ・「描画展」、「書道展」(地域小中学校を対象) ・ユニット12作品展 ・小学生の作品展示 ・書道作品のロビー展 ・地域文化祭での児童 ・生徒の作品展示 ・町民文化祭への作品展示 ・町民文化祭での作品展示(別所小学校、別所中学校)</li> </ul>
<p>文化祭・体育祭・運動会等 (5)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと文化祭(絵画、書道展) ・文芸祭(短歌、俳句) ・あまおだ減災フェス(防災食の試食、救急体験、避難所運営ゲーム、自衛隊展示など) ・合同学習発表会(荒川小学校PTA) ・文化発表会の計画(英賀保小学校中止)</li> </ul>
<p>依頼 (7)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種行事参加、地域行事依頼 ・ふれあい体験教室の参加者呼びかけ依頼 ・絵手紙教室の参加者依頼 ・料理教室(お菓子作り)の参加者依頼</li> <li>・講座、教室への参加呼びかけ依頼(要項や申込書の配布等) ・コロナ禍で学校行事が出来ない時期に幼稚園、小学校、中学校に呼びかけ文化展を開催しました。 ・館の利用促進を学校に求める</li> </ul>
<p>支援・協力 (3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大町ちびっ子祭り(大町小学校行事)の支援 ・大町小学校学習発表会への支援、協力 ・活動資金を補助(中学校の生物部チスジノリ保全活動に)</li> </ul>

その他 (8)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭教育講座 ・自由っ子未来塾(夏休み期間中に10日間の学習支援)</li> <li>・不登校支援事業サテライト教室 ・民間貸農園(小学校が借りて公民館が担い、地元JAが協力する。)</li> <li>・在宅療養ワークショップ ・家庭教育学級(認定こども園)</li> <li>・「中学生対象:教育相談」 ・放課後子ども教室での空き教室の活用</li> </ul>
------------	--

問5 若年層の事業参画について、貴施設から学校組織等に相談したことはありますか。

- ① ある 45 (27%)      ② ない 110 (67%)      ③わからない 10 (6%)

問6 若年層の事業参画について、貴施設が学校組織等から相談されたことはありますか。

- ① ある 26 (16%)      ② ない 122 (74%)      ③わからない 16 (10%)

問7 学校組織等の部活動やサークル活動において、貴施設を若年層が利用していますか。  
(令和2年・3年の実績もあればお答えください。)

- ①している 46 (28%)      ②していない 117 (71%)      ③わからない 1 (1%)

問8 上記の問6において「①ある」とお答えいただいた方は、具体的な内容をわかる範囲でご記入ください。 [回答用紙(記述)]

小学校 (10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども会行事開催のための場所を提供 ・少女バレーチームの練習 ・放課後子供教室 ・大町小学校のクラブ活動の支援協力 ・地域のスポーツ団体が練習で体育館を利用 ・町たんけん ・作品展への参加 ・子ども向け教室の実施</li> <li>・高田小学校がTCC(高田コミュニティクラブ)の活動</li> </ul>
中学校 (9)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生の体育祭のダンス練習 ・中学校の部活動 ・県内中学校2校部活動のためにホールや学習室等を予約・中学校演劇部発表会 ・夏休み期間中の中学校部活動の練習 ・吹奏楽部(山陽中学校等)の会議 ・バレーボール部の練習 ・吹奏楽部パート練習</li> </ul>
中学校・高校 (8)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動(テニス、バレーボール、バスケットボール、吹奏楽等) ・休日等クラブ活動の練習・運動部による多目的ホール(体育館)利用 ・音楽部や吹奏楽部の練習 ・市民活動課で所管している住民センター体育館等を部活動で使用</li> <li>・吹奏楽の定期演奏会 ・吹奏楽部など音楽関係の練習</li> <li>・部活動の一部が自主グループを作り、練習活動に利用・登録団体茶道が中学生、高校生への指導</li> </ul>
高校 (11)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上郡高校 ・部活動で施設を利用・部活動の練習、発表の場として利用</li> <li>・活動のため音楽練習室を使用 ・高校演劇合同公演 ・吹奏楽部練習 ・尼崎小田高等学校(バトントワリング部、演劇部の発表会) ・ダンス部、演劇部</li> <li>・美術部、写真部の作品展示 ・書道部・音楽部の合唱練習 ・社協主催「コミュニティ食堂きらら」の毎月開催(別所高校ボランティア部)</li> </ul>

大学・専門学校 (2)	・大学等の部活・サークル等(合唱・アカペラなど)での利用・関西国際大学(サークル活動で子ども向けのイベント実施)
その他 (5)	・お花体験教室(伝統文化)、竹工作・自然学校や授業などで歴史資料館等の見学、説明など・子どもゆめ基金助成団体との連携事業「大自然の化学教室」「たじま自然探検隊」などの複数の体験学習・PTAの会議・体育館の利用(卓球、剣道)・トライ・やるウィークでの生徒受入れ・チャンゴ(韓国伝統打楽器)の練習

問9 今後、可能であれば若年層の事業参画に向けた貴施設と学校組織等との連携を希望しますか。

① 希望する 134 (83%) ② 希望しない 8 (5%) ③ わからない 20 (12%)

問10 上記の問8において「②希望しない」「③わからない」とお答えいただいた方は、差し支えなければその理由をご記入ください。又は、連携するために必要な条件や手続きなどがございましたらご記入ください。

回答	分類	具体的内容
希望しない (8)	ニーズが無い (7)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども対象の事業は実施しているが、現時点では学校組織との連携事業の需要は少ない。</li> <li>・公民館の事業以外にも、普段から地域若年層との交流は日常におこなっている。</li> <li>・学校組織等内の施設で活動が十分行えている。</li> <li>・今のところ若年層を対象とした事業は予定していない。</li> <li>・学校組織等との連携の必要性が分からない。</li> <li>・従来から、交流がないため。</li> <li>・今のところ、交流がないため。</li> </ul>
	課題 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携実施スケジュール調整(学校授業、行事スケジュールの変動が多い、立ち合い教師確保)が困難。</li> </ul>
分からない (20)	ニーズが無い (7)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若年層が公民館運営にかかわることがない。</li> <li>・具体的にどんなことが、可能か、今の段階では考えられない。</li> <li>・若年層対象の事業が少ない。また、多数参加が不可能な時もある。</li> <li>・どのような要望や課題があるのか現状把握できていない。将来像が見えない。</li> <li>・ニーズがあるとは思えない。</li> <li>・現在のところ、若年層が参加するような事業が予定されていないため。</li> <li>・相互に連携することが望ましい事業案が具体的に上がれば前向きに検討するが、現時点では分からない。</li> </ul>

<p>課題 (3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題として①対象になる学校決め ②場所、施設環境の改善 ③対応する人の確保が必要。。</li> <li>・ 学校にニーズがあれば使用してもらいたい。</li> <li>・ 自治体組織として検討が必要と考える。</li> </ul>
<p>コロナ禍で停まっている (2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍前の活動で公民館祭りに参加をお願いしていたのですが、従来通りの事が出来ず模索中です。昨年度は文化展を開催してご家族の方に来館して頂きました。</li> <li>・ 小学校(生)には、囲碁教室(クラブ活動)、料理教室、茶道。幼稚園(児)には、昔遊び、輪投げ、料理教室、茶道を実施(2年前まで)していました。</li> </ul>
<p>その他 (6)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公民館管轄区域(小学校校区)には高校はありません</li> <li>・ 学校における部活動の今後の在り方について具体的な方針が示されてから検討。</li> <li>・ 公民館がないため、皿はすべてわからないを選択しています。</li> <li>・ 内容による。</li> <li>・ 離島にある施設のため、近隣に対象となる学校組織等がない。</li> <li>・ 青少年を対象とした事業等を企画しているが、事業の内容により共催や運営の協力、又は広報活動への協力のみなど連携の程度が変わると思うので現状では判断できない。</li> </ul>
<p>無回答(2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 無回答</li> </ul>

公民館等(社会教育・生涯学習施設)と学校組織等との連携に関するアンケート調査 R4集計表①

【アンケート回収数】

171

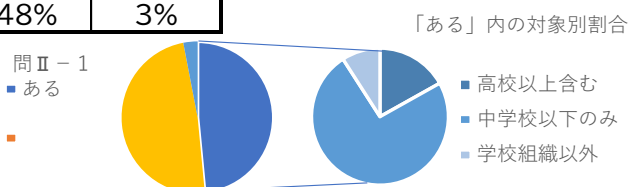


【地域別回答数】

地域	神戸	東・北播磨	中播磨	西播磨	但馬	丹波	淡路	阪神
回答数	3	41	32	26	15	2	34	18
割合	2%	24%	19%	15%	9%	1%	20%	11%
回収率	43%	95%	44%	70%	52%	67%	68%	41%

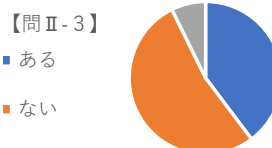
【問Ⅱ-1】現在、貴施設の事業に学校組織等との連携はありますか。

項目	ある	ない	わからない
施設数	80	80	5
割合	48%	48%	3%
対象	高校以上含む	中学校以下のみ	学校組織以外
施設数	13	57	7
割合	8%	35%	4%



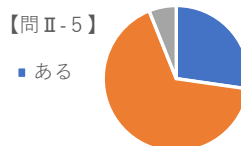
【問Ⅱ-3】過去(R2、R3年度)に、貴施設の事業において学校組織等と連携した実績はありますか。

項目	ある	ない	わからない
施設数	60	80	11
割合	40%	53%	7%



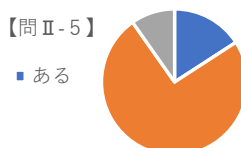
【問Ⅱ-5】若年層の事業参画について、貴施設から学校組織等に相談したことはありますか。

項目	ある	ない	わからない
施設数	45	110	10
割合	27%	67%	6%



【問Ⅱ-6】若年層の事業参画について、逆に貴施設が学校組織等から相談を受けたことはありますか。

項目	ある	ない	わからない
施設数	26	122	16
割合	16%	74%	10%



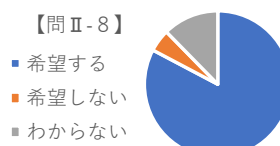
【問Ⅱ-7】学校組織等の部活動やサークル活動において、貴施設を若年層が利用していますか。  
(令和2年度、3年度の実績もあればお答えください。)

項目	ある	ない	わからない
施設数	46	117	1
割合	28%	71%	1%



【問Ⅱ-9】今後、可能であれば若年層の事業参画に向けた貴施設と学校組織等との連携を希望しますか。

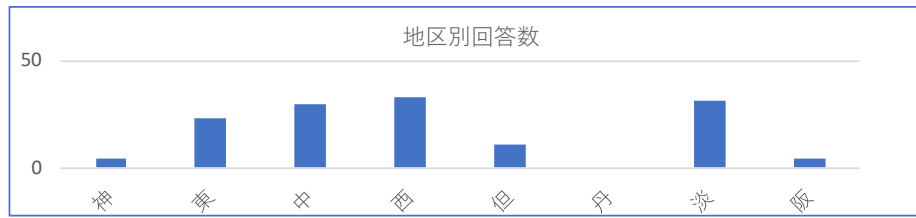
項目	希望する	希望しない	わからない
施設数	134	8	20
割合	83%	5%	12%



公民館等(社会教育・生涯学習施設)と学校組織等との連携に関するアンケート調査 R1集計表①

【アンケート回収数】

136



【地域別回答数】

地域	神戸	東・北播磨	中播磨	西播磨	但馬	丹波	淡路	阪神
回答数	4	23	30	33	11	0	31	4
割合	3%	17%	22%	24%	8%	0%	23%	3%

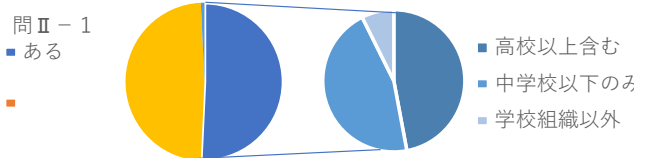
【問Ⅱ-1】現在、貴施設の事業に学校組織等との連携はありますか。

項目	ある	ない	わからない
施設数	69	66	1
割合	51%	49%	1%

対象	高校以上含む	中学校以下のみ	学校組織以外
施設数	32	31	5
割合	24%	23%	4%

「ある」内の対象別割合



【問Ⅱ-3】過去に、貴施設の事業において学校組織等と連携した実績はありますか。

項目	ある	ない	わからない
施設数	65	56	15
割合	48%	41%	11%

【問Ⅱ-3】



【問Ⅱ-5】貴施設から事業への若年層の参画について学校組織等に相談したことはありますか。

項目	ある	ない	わからない
施設数	53	72	10
割合	39%	53%	7%

【問Ⅱ-5】



【問Ⅱ-6】学校組織等の部活動やサークル活動において、貴施設を若年層が利用していますか。  
(過去の実績もあればお答えください。)

項目	ある	ない	わからない
施設数	42	88	4
割合	31%	66%	3%

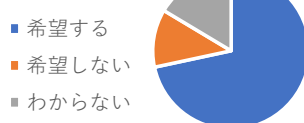
【問Ⅱ-6】



【問Ⅱ-8】今後、可能であれば若年層の事業参画に向けた貴施設と学校組織等との連携を希望しますか。

項目	希望する	希望しない	わからない
施設数	96	16	22
割合	72%	12%	16%

【問Ⅱ-8】





## IV 考察

### 1 調査方法について

当初は、グーグルフォームによるオンライン回答のみを想定していたが、Excel ファイルを使ったメールによる回答も可能とし、両面での調査を実施した。

その結果、オンラインによる回答が 70 件、Excel による回答が 101 件、計 171 件の回答が得られた。前回（令和元年度調査）回答数（136 件）より若干の増加が見られたのは、手軽な Web 回答が回答数の増加につながったと考えられる。半面、セキュリティ保護のために使用不可の市町や Web 回答に対する不安や操作に不慣れ等の理由で、Excel ファイルによるメール回答が全体の 6 割に達するなど、公民館の ICT 化の遅れが感じられた。国が進めるデジタル化社会の推進について、住民の身近な公民館での活用が、ハード面、ソフト面ともに進んでいない現状が分かる。

### 2 新型コロナウイルスとの共存時代における公民館活動等の実態調査について

問 1 令和 2 年度以降、新型コロナウイルス感染症との共存時代、公民館等の運営上、学級・講座や施設管理上で工夫して実施されたことについて（問 2 は記述回答）

- (1) 公民館として取り組んだことは、③の感染防止対策の物品整備（161 件）や②の人数制限（144 件）が突出していることから、公民館は感染防止対策と人数制限に努めたことが分かる。反面、感染防止対策以外の取組はほとんど手が回らなかったと考えられる。また、社会で取り入れられたリモート会議（26 件）やオンラインの活用（14 件）と、ICT の活用がほとんど進まなかったことも分かった。
- (2) 記述回答の中には、広報や ICT の活用に取り組まれた公民館の例がみられる。資料や公民館だよりなど誌面を活用した取組の他、動画配信やシステムの改善に取り組まれた公民館があった。

問 3 令和 2 年度以降、新型コロナウイルス感染症との共存時代、公民館の運営上、コロナ禍だからこそ、促進できたと感じている（考えている）ことについて（問 4 は記述回答）

- (1) コロナ禍だからできたことのトップが、感染防止対策の備品の整備（147 件）が突出して多く、他の対策がほとんどできなかった現状が現れている。新型コロナウイルス感染防止対策が公民館の優先事項となった実態が分かる。
- (2) 2 番目に多い項目に、⑫事業の取捨選択が 26 件（15%）あるが、普段であれば中々進まない事業の見直しが進んだことは、コロナ禍のプラス面と考えられる。
- (3) 特に、⑥～⑨の ICT に関する項目では、国が推進している ICT の活用が公民館では進まなかったことが分かる。その中でも、Wi-Fi の整備（24 件）やオンライン会議（14 件）は少しは進んだようだが、同じ ICT でもホームページの利用・活用（4 件）は進んでいない。そこまで手が回らなかったことも考えられる。

- (4) 記述回答から、「コロナが話題になることで、地域住民相互の良き関係性に深まりを感じる。」や「動画作成によって、自分たちの活動を見つめなおす機会となった。」という公民館も有った。
- (5) 以上の結果から、公民館にとって感染防止対策が重く押し掛かり、そこに大量のエネルギーを投入せざるを得なかったと考えられる。After コロナ、With コロナでは、感染防止対策以外でも様々な対応が進んでくることが期待される。

**問5 令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症との共存時代、公民館の運営上、課題と  
感じている（考えている）ことについて（問6は記述回答）**

- (1) 課題と感じていることは、実施した内容に比べて多方面にわたっている。With コロナになって、次のことに目が向いて来たことの表れと考えられる。
- (2) 一番多い課題は感染防止対策で、引き続き課題であると認識されている。公民館にとっての新型コロナウイルス感染防止対策の負担が、このことから分かる。
- (3) 次に課題と感じていることの⑤講座・イベントの定員が流動的（67件）、⑦対面講座・イベントの参加人数確保がコロナ禍以前より難しい（82件）、⑨市民の対面活動意欲の減退傾向（58件）、⑩施設利用者が戻らない（40件）は、主に講座への参加者の減少についてである。講座ができないことや参加者が集まらないことは現実の問題であるが、この2年間のコロナ禍で活動意欲の減退傾向が見られることは大きな問題である。今後、様子を見ていく必要があるが、この現状が続けば事業等の継続性が失われる。さらに、今後のイベント開催の可否判断に苦慮している。イベントを開催しても、参加者の動向が読めないなど、開催に対しての不安が感じられる。
- (4) その他、ICTの利用については、常に更新しなければいけない機器の経費負担や人材確保が課題として挙がっている。
- (5) 記述回答では、「コロナ禍前のイベントを復活させたいが経験者が少なく、要領等の引継ぎも無く、全てが初期化されていて、一からイベント企画をしていることに加えてのコロナ禍対策。ボランティア確保も大変」だという、継続が止まってしまうことによる損失は計り知れない。
- (6) 今回の調査を実施した兵公連としては、全県で同じようにSNSが活用できることで組織としてスムーズな運営が実施できるが、市町によってセキュリティが異なり、それぞれに対応しなければならないことは、情報共有が困難なことや、対応に時間がかかるなど、今後の課題である。
- (7) このようなアンケートへの回答が負担だと感じている公民館が有ることも事実である。

**3 新型コロナウイルスとの共存時代における公民館と学校組織等との連携等の実態調査について（経年比較を含む）**

**問1 現在の公民館事業と学校組織等との連携について（問2は記述回答）**

- (1) 学校組織との連携に関しては、コロナ禍前の令和元年度は51%と現在の48%と大きな差異は見られなかった。コロナ期間中の令和2年・3年の40%から少し回復し、コロナ禍以前の状態に戻りつつあると考えられる。
- (2) このコロナ禍においても、たくさんの連携が成され、たくさんの公民館が頑張っており組んでいることが分かった。
- (3) 高校生、大学生との連携や交流が前回からの課題であったので、そこに注目すると、調査時点で高校生以上の連携が1/3に減少(24%→8%)し、小中との連携が12%増加(23%→35%)している。このことから、近くの小学校・中学校とは素早く交流が再開できたが、遠くの高校・大学との連携が難しかったと考えられる。今後、感染が落ち着くことで、高校生以上の若者との交流が戻ってくることを期待される。

**問3 令和2～3年度に、公民館事業において学校組織等と連携した実績について（問4は記述回答）**

- (1) コロナ禍中の令和2年・3年は学校との連携が48%から40%と減少している。感染拡大の期間に8%の減少にとどまったことは、それだけ地域や公民館にとって学校との交流や連携が大切で、定着していることが分かる。様々な内容で、コロナ禍でも連携に取り組まれたことで、今後も連携が継続されていくと考えられる。
- (2) コロナ禍前後の学校組織との連携について、全体として若干の減少が見られるものの、特に大きな減少は見られなかった。これは、高校生以上との連携が減少する中、小中学生との連携が増加したからである。高校生以上との連携を希望する割合は(72%→83%)に増加し、連携意欲も高まっている。このことから、まず近くの小中学校との連携が再開し、次に高校生以上の若者との連携が戻って来るものと考えられるが、調査時点では戻り切っていなかったと考えられる。

**問5 公民館事業への若年層の参画について、学校組織等に相談したこと**

**問6 若年層の事業参画について、公民館が学校組織等から相談を受けたことについて**

- (1) 実際の連携と同じく、公民館から学校への相談も減少(39%→27%)が見られる。
- (2) 学校から公民館への相談については、令和元年は調査していないので令和4年についてのみ結果であるが、公民館から学校への相談(27%)に比べ、学校から公民館への相談(16%)の割合が約10%少なく、学校との連携は公民館側の希望の方が強い。学校も、授業や学校行事の再開に追われ、連携に取り組む余裕が公民館以上に無かったとも考えられる。

**問7 学校組織等の部活動やサークル活動において、貴公民館を若年層が利用していますか。（令和2年・3年の実績も含む）（問8は記述回答）**

- (1) コロナ禍の2年間の学校組織の部活動の公民館利用は、若干減少している様に感じられるが、コロナ禍前後には大きな差(31%→28%)はみられない。個人や団体規模での活動は、学校単位の活動に比べ小回りが利くので、公民館の利用が大幅に減少し

なかった理由だと考えられる。

- (2) 質問が現在を含めての数字なので、減少幅が少ないのは、現在戻ってきたことの現れだとも考えられる。この結果のみでコロナ禍の2年間の減少を推し量ることは難しい。

#### 問9 今後の若年層の事業参画に向けた公民館と学校組織等との連携希望について

- (1) 公民館は、この2年間で高校生以上の若者との連携が減少し、今まで以上に若者との連携を望んでいる（72%→83%）ことが分かる。逆に希望しない割合が12%から5%に減少していることから、連携意欲が高まったと考えられる。小中学校生との活動再開が進む中、高校との連携再開が遅れていることの表れとも考えられる。
- (2) コロナ禍で高校生以上の若者との関係が失われ、若者との連携を望む思いが強くなったと考えられる。
- (3) 連携希望の割合が80%を超えているのは、逆に高校生以上の若者の参画が少ないことの表れでもあり、若者との交流機会を公民館に限らずの増やしていくことは社会全体の課題である。

#### 問10 上記の問9において「②希望しない」「③わからない」とお答えいただいた方は、差し支えなければその理由をご記入ください。又は、連携するために必要な条件や手続きなどがございましたらご記入ください。

- (1) 希望しない理由に、連携の具体的な方法が見えていないことが多い。高校生以上の連携は、小中学生と同じように進まないのも、ノウハウが少ないことも原因の一つと考えられる。また、若者に達成感が少ないと、単に利用されていると感じることもあり、継続が難しくなる。上手く連携している公民館との情報共有が大切である。兵公連としてもこの点で貢献していく必要がある。
- (2) 公民館活動は全世代の交流が前提であるので、公民館側から希望しないことは疑問がある。具体的な方法や現在実施できない状況で、今は希望できないとも考えられるが、若者との連携を必要ないと考えている公民館があることは問題である。

## V おわりに

今回の調査について、兵庫県公民館連合会加盟の公民館はもとより、阪神間を中心に非加盟の公民館からの回答が得られたことで、県下全域での状況を把握することができた。

また、コロナ禍に関する医療機関の報道が詳細になされる一方、生涯教育や地域づくりに携わる公民館等の情報はほとんど無かったが、今回の調査でコロナ禍における県下の公民館等の取組の状況をまとめることができた。

この調査で、新型コロナウイルス感染拡大による公民館の負担は非常に大きかったことが分かった。それでも、感染拡大中の令和2年・3年でも、工夫して事業が実施されたことは、公民館が必要とされている証拠でもあり、職員の皆様のご尽力の賜物である。

今後の課題として感染対策は続けていく必要があるが、住民の参加意欲の低下が大きな課題として浮上している。2年間の活動休止が、公民館側の事業継続に大きな障害になっていることも切実な問題だが、住民側の意欲の低下も心配である。事業や意欲が消滅するまでに、何とか手を打って公民館の活動再開に取り組むことが、直近の課題であることも分かった。また、多忙な公民館の現状も知ることができた。そんな中でも、若者との連携を模索している公民館が多数あることも分かった。兵庫県公民館連合会は県下の公民館との情報共有を密にし、公民館の活力を取り戻すよう努めていかなければならないと強く感じた。

最後に、ご多忙な中アンケートにご協力いただいた公民館や市町の社会教育・生涯学習担当課の皆様、このアンケートにご支援ご協力をいただいた兵庫県教育委員会事務局社会教育課、そしてアンケートの企画やまとめに、適宜指導や助言をくださった元兵庫教育大学の廣岡徹様に改めてお礼申し上げます。

令和4年度

新型コロナウイルスとの共存時代における公民館等運営実態に  
関する調査研究報告書

令和5年3月発行

編集

兵庫県公民館連合会事務局

(公財) 兵庫県生きがい創造協会生涯学習部

発行

兵庫県公民館連合会

(公財) 兵庫県生きがい創造協会